

2年生道徳の授業でした。中村先生をはじめ、2年生グループ・人権委員会のみなさん、ありがとうございました。道徳の授業の中に、人権テーマを落とし込むのは難しくもありますが、子どもたちに何を伝えたいのか、何をねらいとするのか、授業者が思いを持って教材を開発(開拓)・研究し、チームで深めていく良さ・楽しさを感じる授業でした。「短期目標」をみんなで共有しましょう！

☆今回のポイント☆

◎「生命尊重」を道徳で扱う → テーマ発問で思考を深める振り返りにつなげる。

議論 = 他者と
⇕
対話 = 自己内・テキスト・物や先哲・他者と

考え、議論する道徳

答えが一つではない道徳的課題を、一人ひとりの子どもが自分の問題と捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと転換を図る。

今回のテーマ発問

★授業のはじめとおわりに同じテーマ発問 = 思考の変容・深まりを促す。

「生きることそのものを問う」

生きていることがあたり前という前提の指導要領とは違う。

⇕

※<指導要領>
知的理解より日々の生活経験の中で生きていることのすばらしさを感じ取ることが中心。あたり前でみすごしがちな「生きている証」を実感させる。
授業前に指導要領の解説をしっかりと読み込むことが大切！

道徳のせまい内容項目にあわせる難しさはあった。

道徳の授業づくり<発問>

場面発問 教材解釈・共通理解のために。 ★場面絵のあるところで問う。	中心発問 主人公の価値に対する捉えが大きく変化するところを考える。	テーマ発問 内容項目(道徳的価値)・テーマそのものを追求する。 自己を見つめ、自分ごととする。
---	---	--

|||

子どもの視線が下向きになりがち。
教科書・資料から答え探しになる。

子どもの視線が上がる。
自分で考えざるを得ない。

補助発問…ゆさぶり・問い直し・切り返し発問 **教師が簡単に納得しない！思考停止しそうな時のきっかけ。**

①役割取得を促す問い 「Aさんならどうだろう？」等
②行為の結果を予測する問い 「もし~したらどうなるだろう」等
③認知的不均衡を促す問い 「いついかなる時もきまりは守る？」等

★初読→感想交流→テーマ発問(中心発問) という流れも有効。
★落としどころは無理に求めない。誘導しない。

「バイリー」を通して揺さぶられ、2年生なりの「生きる」を考えていた。

<今後、取り組みたいこと>
テーマ発問！自己評価を自己評価！
★他学年で「バイリー」やってみませんか？

道徳の授業づくり<ふりかえり>

学習活動に着目
○一面から多面へ
○自我関与

自己評価(感想ではなく)
・新しい気付き
・考えたこと・悩んだこと
・わからなくなったこと
・新たな疑問 等

自己評価を自己評価
「一番楽しかった(悩んだ・考えた)授業は？」
…理由を考えながら自己評価する。

一枚ポートフォリオ
「今日の授業で大切だと思ったこと」等
学習者が自分の学びを外化し、とらえやすい。

今回の授業は両面あり。